

# 必要諸室等面積表

## ■必要諸室

必要諸室は標準設計仕様書（平成 26～35 年度）による。

分類	No.	室名	①(m <sup>2</sup> )	②(m <sup>2</sup> )	計画室数	面積×室数(m <sup>2</sup> )	備考
児童・学習ゾーン							
	1	普通教室	64		16	1,024	
	2	ワークスペース	64		3	192	
	3	図書室	128		1	128	準備室含む
	4	教材室兼サーバー室	32		1	32	準備室含む
	5	理科室	128		1	128	準備室含む
	6	音楽室	192		1	192	準備室含む
	7	図工室	144		1	144	準備室、作品庫含む
	8	家庭科室	128		1	128	
	9	個別支援室	16		2	32	
	10	特別支援学級等		196	1	196	
	11	ほっとルーム	64		1	64	
	12	すまいるルーム		160	1	160	
児童・生活ゾーン							
	13	多目的ルーム	192		1	192	
	14	児童会室	32		1	32	
	15	児童用昇降口	128		1	128	
	16	児童用便所				215	児童数×0.5 m <sup>2</sup>
	17	児童用更衣室	32		1	32	
	18	帰宅困難児童用備蓄倉庫	16		1	16	
	19	新 BOP 室			1	156	新 BOP 児童数 ×1.65+32 m <sup>2</sup>
職員・管理ゾーン							
	21	職員室			1	128	職員数×3.7 m <sup>2</sup>
	22	校長室	32		1	32	
	23	事務室	32		1	32	事務物品倉庫を含む
	24	主事室	32		2	64	主事用倉庫(32 m <sup>2</sup> )を含む
	25	会議室	32		1	32	
	26	地域・学校会議室	32		1	32	
	27	印刷室	32		1	32	
	28	放送室	32		1	32	
	30	倉庫・教材室				270	(学級数+3) × 10 m <sup>2</sup>
	31	保健室	96		1	96	
	32	教育相談室	32		1	32	
	33	給食室	400		1	400	
	34	職員・来客用昇降口	16		1	16	
	35	職員・来客用便所	40		1	40	
	36	教職員休憩室	32		1	32	
	37	教職員更衣室	32		1	32	
	38	多機能トイレ	8		1	8	
	39	昇降機	16		1	16	
運動ゾーン							
	41	体育館	800		1	800	
	42	プール	170		1	170	
	43	校庭付属施設	50		1	50	
地域ゾーン							
	44	防災倉庫	100		1	100	
その他							
	45	自然の教室		64	1	64	
共用部							
	46	廊下・階段・踊り場・スロープ・設備スペース					延床面積の 22.3% (目標値)

面積①：標準設計仕様書基準面積、面積②：その他要望等面積

## ■屋外施設

標準設計仕様書（平成 26～35 年度）に加え、法令、その他による。

分類	No.	室名	標準設計仕様書基準規模	その他規模	備考
校庭					
	1	校庭	体育の授業、各種行事に使用可能な面積と設備		
	2	雨水流出抑制施設（浸透・貯留）		【住環境条例】 単位対策量 1,000m <sup>3</sup> /ha 以上	
	3	水のみ場、手洗い場			
	4	校庭利用者用便所			設置については検討する。（校舎内と兼用できるかも含め）
	5	運動ゾーン	トラック 150～200m / 直線 50m 程度		
	6	遊具			「遊具の安全基準に関する規準（社団法人日本公園施設行協会発行）」を参照し、適正に配置
	7	防球ネット・防砂ネット	10m 程度		
外構					
	1	災害用マンホールトイレ			
	2	ビオトープ			原則、新規では設置しない
	3	緑地		【緑化関係条例】 地上部緑化率：敷地面積 ≧5,000 m <sup>2</sup> で 36% 接道部緑化率：学校用途 は接道部の総延長×7/10 樹木本数規定：あり	
	4	駐車場		【福祉条例】 車椅子用駐車場 1 台以上 【既存】 車椅子用駐車場のほか 1 台	【住環境条例】 公共施設を一体整備した場合 車椅子用駐車場 1 台、一般駐車場 4 台 防音壁等または植栽等の設置
	5	駐輪場		【想定】 50 台	【住環境条例】 公共施設を一体整備した場合+10 台
	6	防火水槽			プールで代替可
	7	環境空地		【住環境条例】 敷地面積×0.12の環境空地	